

神奈川県立小田原支援学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

審議会等名称	第1回神奈川県立小田原支援学校 学校運営協議会
開催日時	令和8年5月26日（火曜日） 10:00～12:00
開催場所	神奈川県立小田原支援学校 小田原校舎 応接室
出席者	運営協議会委員等8名（本校校長を含む） ※リモート参加1名、欠席者1名 事務局教職員14名
会議資料	① 次第 ② グランドデザイン ③ 学校教育計画 ④ R8 学校目標 ⑤ R7 学校評価報告書 ⑥ パワーポイント
議事録	<p>1 校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、「児童生徒にとって安全」「保護者にとって安心」「教職員にとって働きやすい」という3つの観点を学校経営の柱とする。 ・昨年度は初年度で手探りの運営であったが、学校運営協議会での意見や提言を踏まえ、今年度はそれらを具体的な形にしていく。 ・旧大井高校の統合により校舎の位置づけが変わり、分教室に加えて県のサポートオフィスが入ることとなった。さらに校舎管理を本校が担うことになった。 ・管理職については5名体制となり、県内でも比較的大規模な体制となった。このような体制のもと、単なる学校運営にとどまらず、「これからの特別支援学校のあり方」を検討していく。 <p>2 会長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方的に報告を受け、一方的に質問や意見を述べるだけの会議ではなく、双方向のコミュニケーションを大切にしたい。 ・委員それぞれの言葉で率直な意見を出し合い、深まりのある対話の場にしていきたい。 <p><出席者自己紹介></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新メンバーの変更に伴い、オンライン参加の委員をはじめ、各委員および学校側管理職・総括教員が自己紹介と今年度の抱負を述べた。 ・過去の勤務地での繋がりや縁を持つ教職員が多く集まっている体制であることが紹介された。 <p>3 今年度の学校運営計画および各部門・学部からの報告（要約）</p> <p>【重点目標・項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 児童生徒の支援方針：適切なアセスメントを活用した、個々の教育ニーズに応じた実践。 ② 適切で丁寧な関わりのスタンダードの構築・充実。 ③ 児童生徒の安全の確保。 <p>■ 知的障害教育部門（A部門）</p> <p><小学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造化・視覚支援・ICT活用による安心した学習環境 <p><中学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程見直し（令和9年度を見据えた日課調整） ・ICT活用の推進（電子黒板・タブレット）

<高等部>

- ・電子黒板活用の高度化
- ・アセスメント力の向上

■ 肢体不自由教育部門（B部門）

<小学部>

- ・身体・意思伝達の困難さの解消を重視
- ・学齢・発達段階に応じた学習
- ・避難方法の具体的検証

<中学部>

- ・キャリア教育を個別に丁寧に実施
- ・作業活動（買い物・校内業務）による社会性育成

<高等部>

- ・小中高の系統性ある教育課程
- ・主体的な進路選択支援

■ 大井分教室

- ・個々のニーズに応じた学習と支援を行い、ICT活用や作業学習の充実、地域連携を通して、主体性と自己肯定感の育成を目指している。
- ・新しい校舎環境を生かし、防災教育も含めた安全で多様な学びの場づくりを進めている。

■ 湯河原校舎

- ・地域との連携を生かし、避難訓練や委託作業、外部講師との交流などを通して実践的な学びを展開している。

■ グループ報告

<教務部>

- ・教育課程見直し（令和9年度実施に向け準備）
- ・行事・授業・日課の整理と系統性の明確化
- ・教員の働き方改善（研修・協議時間の確保）
- ・保護者ニーズを踏まえ、自立と社会参加を見据えた教育を推進

<総務部>

- ・会計処理の効率化（マニュアル・ICT活用）
- ・給食費・バス運営の安全管理強化
- ・緊急時対応の体制整備
- ・PTAの在り方の見直し

<管理部>

- ・学校運営を支える環境整備（保健・防災・施設・ICT）
- ・重点課題：マニュアルの実効性の向上
個人依存から組織対応への転換
教職員が安心して指導に専念できる体制づくり

<指導部>

- ・校内研究（個別最適化・ICT活用）の推進
- ・教員のICTスキル向上
- ・丁寧な関わりの実践
- ・児童生徒の「選択の幅」を広げる支援

<支援連携部>

- ・アセスメント基盤の強化（研修・活用）
- ・進路支援の充実（保護者連携・事業所見学）
- ・学校交流・地域連携の推進
- ・教員の支援力向上とインクルーシブ教育推進

7. 地域からの意見

- ・かつては学校行事などを通じて地域住民が学校に関わる機会が多かったが、コロナ禍を経てその機会が大きく減少し、心理的な距離が生まれている。

- ・学校側から地域に向けて関わりやすい機会を提示することが重要であり、行事の再開や地域参加の仕組みづくりが関係回復の鍵になるのではないかと。

8. 部会会議より（報告）

① 切れ目ない支援部会

- ・「関わりのスタンダード」をどのように発展させるかについて議論が行われた。
- ・「関わりは本来双方向のものであるはずだが、現在は学校から家庭への一方的な発信になっているのではないかと」の指摘があった。
- ・この意見を受け、学校側からも、保護者や福祉、医療の視点を取り入れる必要性が確認された。
- ・また支援を考える上で、子どもを中心に「家庭」「学校」「福祉」「医療」が相互に関係しているということが整理され、「丁寧な関わりとは何か」を把握することの重要性が共有された。
- ・今後は、保護者等へのアンケート調査を実施し、その結果をスタンダードの見直しに反映させていく。
- ・「それぞれの立場の考えを可視化することで、より実効性のあるツールになる」との意見があり、学校単独ではなく、関係機関を巻き込んだ取り組みとして発展させていく。

② 防災部会

- ・「学校が地域にどのように貢献できるか」という視点を中心に議論が行われた。
- ・垂直避難における人手不足や医療的ケア児への対応の難しさ、スクールバス運行時の災害リスクなどの課題がある。
- ・「障害のある方に配慮した避難所として機能できるのではないかと」の意見があり、一般避難所では対応が難しいケースへの対応拠点としての役割が考えられる。
- ・大井分教室の広い校舎や空き教室の活用についても意見が出され、防災拠点としての可能性が指摘された。
- ・地域との関係については、「学校の存在が地域に十分認知されていない」という課題も共有され、防災を契機とした関係づくりの必要性が示された。

9. まとめ

(1) 会長より

- ・本日の発表を通して、私たちはまだ知らないことが多くあることを改めて実感しました。そのため、まず「知ろうとする姿勢」や「興味を持つこと」が大切であり、興味を持ったことに対して一歩踏み出す行動力の重要性を感じました。
- ・また、小さなことであっても具体的に取り組むこと、そして目に見える形で積み重ねていくことが大切であり、それが次の行動や理解につながっていくと学びました。
- ・本日は多くの示唆をいただき、大変有意義な時間となりました。今後の活動にも生かしていきたいと思えます。

(2) 校長より

- ・本日はご参加いただきありがとうございました。今年度は昨年度から継続した取組もあり、初回から具体的で深い議論が進められていることに手応えを感じています。
- ・防災に関しては、学校の立地や役割を踏まえ、避難場所としてだけでなく、障害のある方が安心して過ごせる環境づくりや支援の在り方について発信していくことも、学校の重要な役割であると感じました。また、こうした取組を進めるには、行政との連携や協議も重要になってきます。
- ・さらに、保護者や地域との関係では、学校からの一方向ではなく、

	<p>相互に理解し合う双方向の関わりが重要であり、多様な考え方を受け止めながら教育の質を高めていく必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• 会議回数は限られていますが、委員の皆様からいただいた言葉や意見を大切に、学校運営や教育活動の改善にしっかりと反映していきたいと考えています。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。 <p>■ 次回予定</p> <ul style="list-style-type: none">• 令和8年10月28日（水）• 第2回学校運営協議会（中間報告・アンケート検討）
--	--